

## 令和4年度 学校関係者評価書

学校園名 附属高等学校

### 1 学校関係者による評価

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	<p>評価：A</p> <p>コロナへの対応が急務だった故とは云え、オンラインシステムでのハイブリッドな環境が整備されたのは良かった。コロナ後の行事のあり方については、伝統行事の廃止・縮小が学校の衰退につながることを鑑み、十分な検討が必要である。休止してしまった行事等を再開する事はノウハウや経験者の減少あるいは不在などにより大変な労力が必要だと思われるので、できる限りの努力と叡智をもって継続の方策を探ってほしい。広報活動については積極的な発信がみられ特に問題ない。学校公開については一部中止した活動があったものの工夫した中で行われている。会議の量的軽減については、ICTを活用した効率的な方法での実施が可能となり、働き方改革の面からも評価できる。</p>
教育活動	<p>評価：A</p> <p>教科教育については、SSH 探究活動を柱に本物教育を充実させている。またカリキュラムについても現代的な教科指導を念頭に置いて深化させている。進路指導についても様々な方策を打ち出しており、充実した対策・支援が実施されている。幅広い分野で活動する卒業生を紹介し、現代社会が抱える問題を共有させる特別授業をもっと増やしたらどうか。生活指導と安全教育については、いじめ対策、こころの問題への対応、生徒の SNS に関する指導等、幅広い観点からの活動が行われており、あわせて教員の指導力向上も図られている。</p>
研究活動	<p>評価：B</p> <p>研究活動においては、管理職、各教科、研究部、帰国生留学生委員会、広報等、それぞれの担当において有意義な活動が行われ、効果を上げている。これらの活動においてもコロナの影響を受ける事態となったが、その中で教員の努力により、地域との連携や還元も積極的に行われている。宿泊行事のあり方、対応の難しい生徒指導事案など、先導的とは言えない課題にも泥臭く取り組んで解決していくことを目指してはどうか。</p>
学生の教育・支援活動	<p>評価：A</p> <p>教育実習においても、少なからずコロナの影響を受けているが、柔軟な対応で教育実習指導を展開している。近年は大学生の資質にも変化がみられ指導教員の苦労が顕著なものとなっているが、その中でも誠実な指導が行われている。学生の教育上の大学との考え方の乖離については、教職の本来の在り方に立ち戻ってぜひ現場（附高）の考えに自信を持って臨んでいただきたい。</p>
社会貢献活動	<p>評価：B</p> <p>社会貢献活動として、防災活動およびボランティア活動による地域貢献、特別支援学校におけるインクルーシブ教育の実践等が行われている。コロナにより行うことができない活動もあったが、今後はそれらを復活させ、さらに多くの活動を行っていくことが望まれる。附高生の特徴を活かして、子どもの学習支援、町内会役員の事務補佐（たとえば、広報Webの制作）のような取り組みを検討してはどうか。</p>

## 2. 評価の実施概要

- ・令和4年度学校経営計画の重点目標及び評価項目の取組の（学校からの）説明
- ・学校自己評価の結果及び、今後の改善方策並びに評価項目などのあり方等についての評価
- ・学校関係者評価書の取りまとめ

## 3. 学校関係者評価委員会 開催日 令和5年3月20日（月） 15：00～17：00

学校関係者評価委員：小玉剛，武田佐知子，町井研士，柴山喬一，梅澤幹司，山里哲史（PTA会長）

校長：大野弘 副校長：後藤貴裕 主幹教諭：大谷晋，平野正彦，安井崇